

## 第2学年 国語科 学習構想案

日時 令和7年9月25日(木) 第2校時

場所 2年1組教室

指導者

### 1 単元構想

<b>単元名</b>	みの回りのものを読もう (光村図書㊤ 「たんぼぼ」 P、118～119)		
<b>単元の目標</b>	(1) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。 [知識及び技能] (2) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] (3) 主体的に考えたり説明したりしようとしている。 [学びに向かう力, 人間性等]		
<b>単元の評価規準</b>	<b>知識・技能</b>	<b>思考・判断・表現</b>	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>
	① 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア)	① 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ② 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想を持っている。(C(1)オ)	① 積極的に身の回りのものから重要な情報を読み取り、学習課題に沿って、考えを交流しようとしている。
<b>単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)</b>			
身の回りにある表示からその意図や工夫、何を伝えているのかを考え、日常生活でも意識して読み取ることができる児童。			
<b>単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)</b>		<b>本単元で働かせる見方・考え方</b>	
身の回りにある言葉や絵の使い方などを工夫したものを見つけ、重要な情報を読み取ろう。		情報には伝える際に様々な工夫が施されていることを知り、身の回りの表示や看板などから大切なことを読み取る意識を高めること。	
<b>指導計画と評価計画(2時間取扱い 本時1/2)</b>			
<b>過程</b>	<b>時間</b>	<b>学習活動</b>	<b>評価の観点等</b> ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された情報から、その情報を伝える際にどんな工夫が施されているかを考える</li> <li>・身の回りの情報から必要なものを集めて伝えたいことは何か整理する。</li> <li>・この情報は何を伝えたいのか、どんな工夫をしているのか考え意見を交流する。</li> </ul>	☆【知①】(発言・記述) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。 ★【思①】(発言・ワークシート) 伝えたいことは何か読み取り、その情報を伝えるための工夫は何か考えている。
二	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の中や周りにある表示を探し、その工夫を読み取る。</li> <li>・見つけてきたものを共有しながら、どのような工夫がされているか、読み取ったことをまとめる。</li> </ul>	☆【態①】(発言・観察) 積極的に身の回りのものから重要な情報を読み取り、学習課題に沿って、考えを交流しようとしている。 ★【思②】(記述) 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想を持っている。

## 2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)																	
小学校学習指導要領第1学年及び第2学年 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項一ア [思考力、判断力、表現力等] 「C読むこと」 (1) 一ウ・オ																	
教材・題材の価値																	
本教材は、身の回りの表示や看板、標識、ポスター、注意書きなどの特徴を考える学習を通して、大事な情報を読み取る力を培う単元である。どの情報が大事かを考える際には、文字の大きさや色、言葉の量や絵の使い方に着目する必要がある。見たことがある身の回りの表示を想起しながら、どのような工夫をしているかを考えさせる教材である。																	
本単元における系統																	
2年「みの回りのものを読もう」…身の回りにある言葉や絵の使い方を工夫した情報を見つける。	5年「新聞を読もう」 書かれた目的や対象を踏まえて、知りたいことに合った新聞や記事を選んで読む。																
3年「ポスターを読もう」…作られた目的や対象を考えながら読む。																	
4年「パンフレットを読もう」…作られた目的や対象を踏まえて、自分に必要な情報を中心に読む。																	
6年「インターネットでニュースを読もう」 …情報源を確かめ、複数の情報を組み合わせる。																	
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)																	
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 (「読むこと」に関するテストより) (点)																	
「読むこと」に係る内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>自校平均点</th> <th>期待平均点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86.7</td> <td>87</td> </tr> </tbody> </table>	自校平均点	期待平均点	86.7	87												
自校平均点	期待平均点																
86.7	87																
文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。																	
■本単元の研究の視点に関する意識の状況 (人/23人)																	
「学び」に係る調査内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>よく</th> <th>まあまあ</th> <th>あまり</th> <th>ない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12</td> <td>9</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>11</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	よく	まあまあ	あまり	ない	12	9	1	0	8	11	3	0	13	5	4	0
よく	まあまあ	あまり	ない														
12	9	1	0														
8	11	3	0														
13	5	4	0														
「なんでだろう?」「こうかな?」など「問い」をもって学習していますか。																	
どうしてだろうと考えたり、解決するために友達のことをよく聞いたりなどを、自分からしていますか。																	
先生からの質問に、みんなと色々話し合いながら、「そうか!」「なるほど!」と、わかるときがありますか。																	
■考察 (資質・能力に関して) …「読むこと」に係る内容では期待平均点をやや下回る値である。重要な箇所をしっかりと押さえ考えさせるとともにその考えを説明したり表現したりしていくための活動を工夫していく必要がある。  (学びに関して) …学習意欲が高く、友達同士の話し合いを通して考えを形成したり、発表への自信につながりやすい児童が多い。魅力的な問いの設定や、発問、また、協働的な学びの場を設定し、その中で考えを広げたり深めたりできるよう、手立てを行う。																	

### 3 指導に当たっての留意点

#### 視点1 子供が問いを持ち、主体的に学ぼうとする質の高いめあての設定

- 「どうしてこっちの方が伝わるのだろうか?」という、問いを子供から引き出し、その問いを個々が持って提示した資料をよく見て比べたりすることで、そこにはいくつかの情報を伝えるための工夫が存在していることに気づかせるようにする。また、それぞれの資料を各グループで話し合ったり、その成果を発表したりする活動を通して、主体的に関わり、考えをさらに深く広げさせるようにする。

#### 視点2 子供の深い学び・確かな学びに導く発問・活動(深めたいム)の設定

- これらの表示やポスターなどはどんなことを伝えているのか考えていく中で、伝えたい情報をより一層伝わりやすくするための工夫が他の教材にも施されているのか改めて問うことで、より深く考え注視することを促す。

4 本時の学習

- (1) 目標 言葉や絵には、事物の内容を表す働きがあることを知り、そこにある工夫はなにか考えることができる。
- (2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	○指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 課題をつかむ。</p> <p>①看板や標識について知っていることを話す。 ◇道路でよく見つける。 ②文章のみの標識を見せる。 ◇漢字が多くてなんて書いてあるかわからない。 ③避難・誘導標識を見せ2つを比較させる。 ◇これは逃げる時の標識だよ。 ◇こっちのほうがわかりやすいね。 ④なぜ後に表示した標識のほうが伝わりやすいと感じたのか理由を問う。 ◇逃げる人や矢印の絵があるから。 ◇文章がないから。(言葉の量)</p>	<p>○黒板に示した標識を見て何を思ったのか発表させる。</p> <p>○避難・誘導標識と比較し、どちらが伝わりやすいのか考えさせる。</p> <p>○どちらの標識も緊急避難時の標識であることを理解させる。</p> <p>○同じ意味合いを持つのに伝わりやすさが違うことに疑問を持たせる。</p> <p>○④での意見が「工夫」であることを強調し意識づけ、次の活動の際に「工夫」を読み取りやすくする。</p>
		<p>問い→学習課題身の回りの情報を伝えるものにはどんな工夫があるのだろうか？</p>	
展開	33分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>(1)4枚の写真を見てそれぞれの看板、標識は何を伝えているのか考える。 ◇水の近くは危ない。 ◇図書館がお休みの日。 ◇ごみの種類が違う。 ◇110番のお家の場所。</p> <p><b>ゆさぶり発問や活動</b> この表示にも伝えるための工夫がされているのかな。</p> <p>(2)グループに分かれ、自分の選んだ標識について、どんな工夫がされているか考え共有する。 ① 一人で確認 ② 同じ写真を選んだ者同士集まり意見を深める。 (3)考えたこと話したことを全体に共有する。 ◇「あぶない」を赤文字にしたり、海が飲み込むような絵を描いたりしている。 ◇色を変えたり、文字の大きさを変えたりしている。 ◇目立つ色にしたり、パトカーの絵を使ったりしている。</p> <p><b>【期待される学びの姿】</b> 1つの標識から伝えたいことは何か、それを伝えるために施してある工夫は何か自分なりに考察し、それを友達と深めようとする姿。</p>	<p><b>【具体的評価規準】思①</b> 伝えたいことは何か読み取り、その情報を伝えるため工夫は何か考えている。(発言・ワークシート)</p> <p><b>【到達していない児童への手立て】</b> ○机間巡視の際、色使いや文字の量、大きさなどに視点がいくように助言をする。 ○自分が興味のある標識を選択させ、より意欲的に、主体的に活動できるように促す。 ○それぞれのやり取りによって見えてきた教科書に載っていないことや、自分の考えも、大いに取り上げ、実感を伴った理解や共有ができるようにする。 ○机間巡視の際に、字の大きさや色使いなどの工夫に目が届いている児童をあらかじめ把握しておく。</p>
終末	7分	<p>3 問いに対する答えをまとめ、学習をまとめる。 ◇色を変えたり絵を使ったりしている。 ◇文字の大きさを変えている。</p>	<p>○板書で、各自が出したキーワードを押さえ、どれも大切な工夫であり、様々な工夫が施されていることを、丁寧に押さえる。</p>
		<p><b>【まとめ】身の回りの情報を伝えるものには、文字の色や大きさ、絵などたくさんの工夫があることが分かった。</b></p>	
		<p>・本時の感想をペアで共有し、全体に発表する。</p>	<p>○振り返りの視点を与える。 ①今日の学習で分かったこと。 ②友だちの意見でかわったこと。</p>

「授業の終末に、つぶやいてほしい子供の言葉：

「情報を伝えるためにいろいろな工夫をしているんだね。色や大きさが違うだけで全然違うんだね」